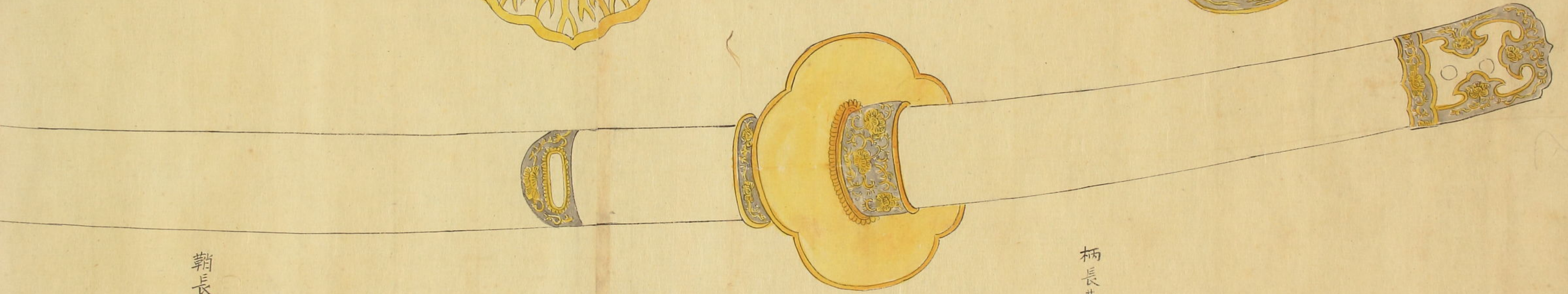
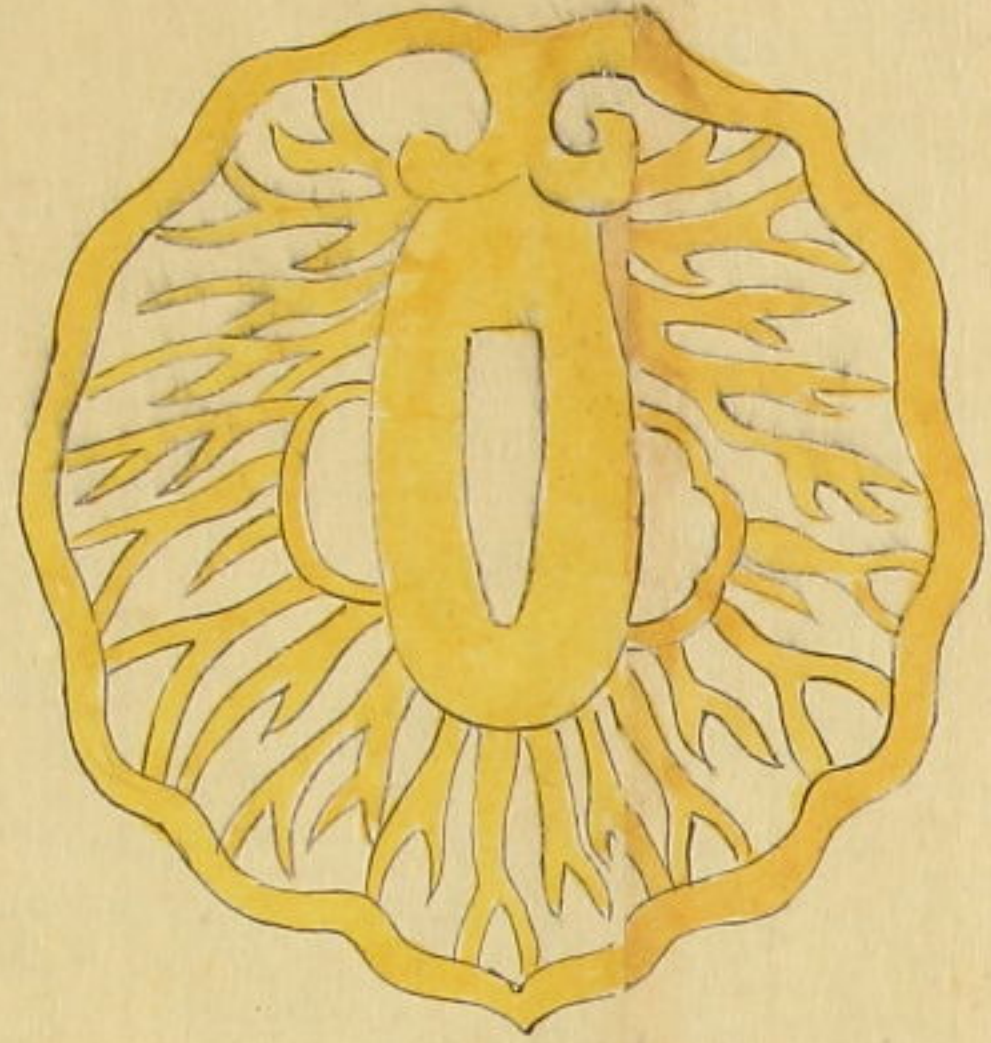




古打刀圖
或家藏

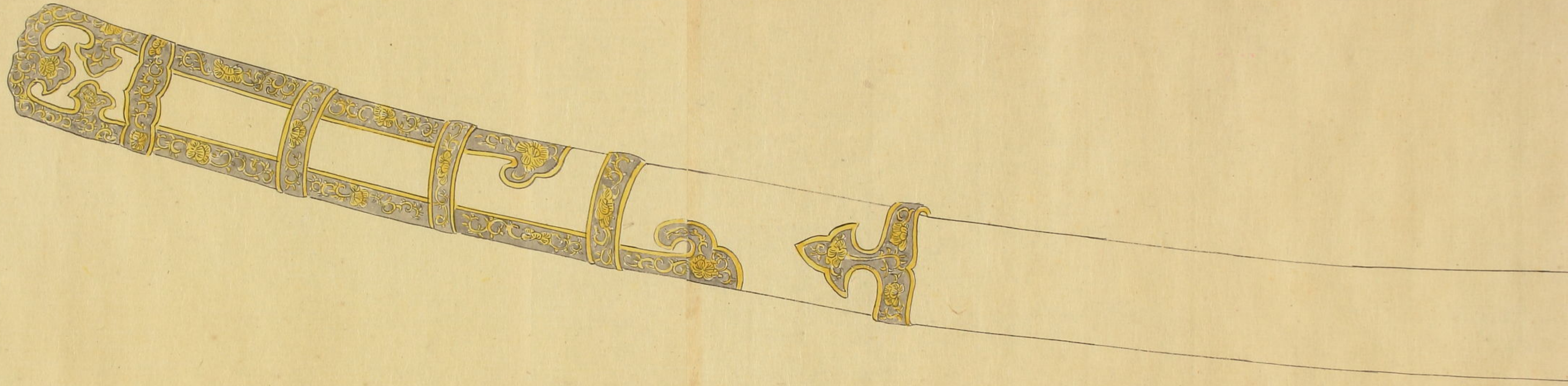


鞘長サ九尺二寸

柄長九寸



鞘長九尺二寸



天明二年壬寅極月十日寫勤思堂藏本

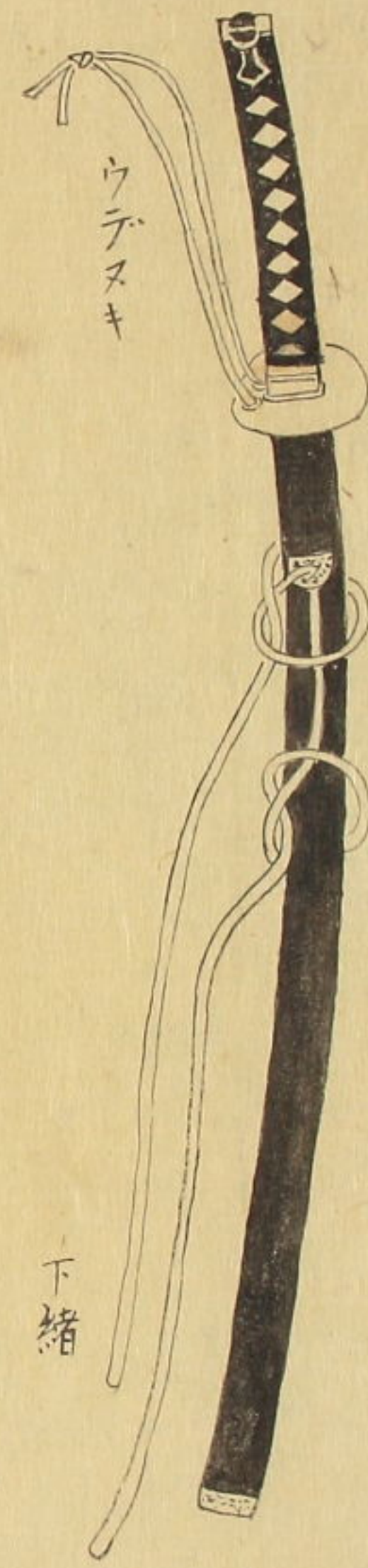
伊勢平藏貞丈

天明二年壬寅極月十日寫勤思堂藏本

伊勢平藏貞丈

伊勢貞春藏本打刀圖

一 打刀帯より下緒の一方とケリケリの柄より一巻とひとて一巻一又
一方と五寸程のけて又一卷とひと一巻をい、右の帯より下緒を
右のこしとて渡の上帯の柄に身て右脇に結事と方と帯す
る附のこしとて一巻の一方とひとあす



一 打刀とて名目ハ鎌倉御軍建久建長の時より見え
一 各同少とて名目ハ刺刀ウチカタ也サスガ刺刀ウチカタは附いたる名也
け刀ハ心潭を今故一名鐔刀とて今世は古より
大あり

一 打刀名目車鏡著聞集貞託平家物語同長門本
盛衰記太平記宗五記大内問答高館草子酒吞童
子物語室町殿日記等に見エタリ

一 鐔刀名目三光院内府記御供故実大内問答宗五記等に見タリ
ト傳百首天久永縁 比人今乃在ハ太刀ハ瘡とて云あり刀も同
一 名成魚カハキカ又云

柄ハ只草子とまされる物ハ一糸とて出たぬれとて
つぬ○菱とてまききる柄ハ此内乃魚一と物とて
て知へ

甲寅十月

伊勢貞春

八幡百里

文化九十二廿一

一 鐔刀名目 三光院内府記御供致実 大内同答宗正記等見たり

ト傳百首天久永縁 比人 今乃在ハ太刀ハ瘡ト云ありツ刀モ曰

ト成魚ト切ハ赤カ〇又云

柄ハ只草子まされハ物ハ一糸ト云ハぬれツクモ
ツメ〇菱まきまきツクハ柄ハ此内乃熟ト云物ト云
ト知ト

甲寅十月

信樂貞春

文化九十二世一

八幡百里

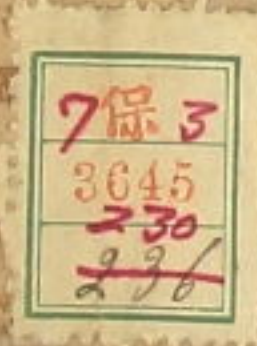




古打刀圖
或家藏

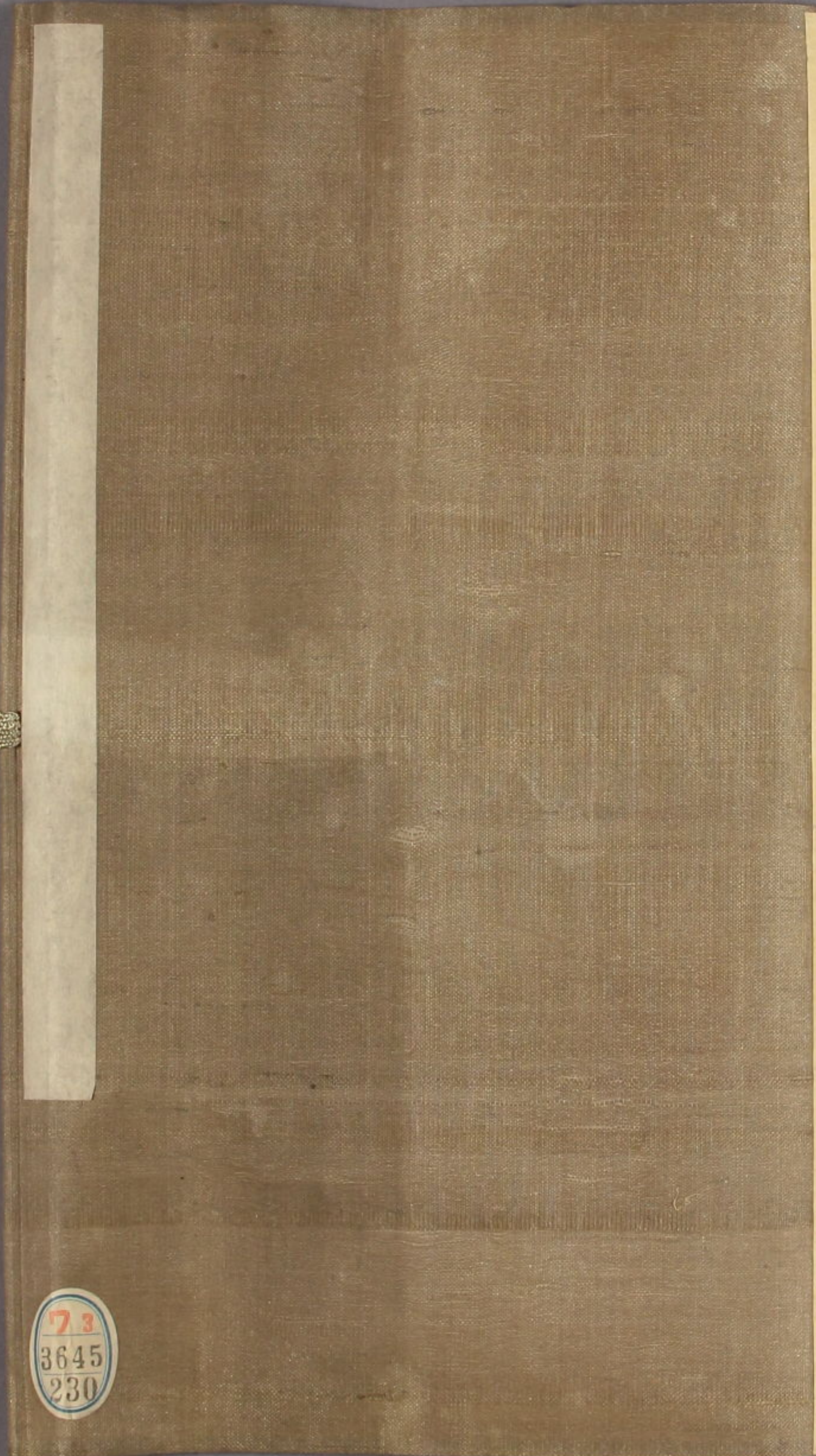


古打刀圖



3645
230





73
3645
230